

前列左から3人目が高尾会長、左隣が鹿糠さん、後列左から4人目が前田会長



富士山北麓でサツマイモ

西桂町農委会 放棄地解消へ定植

【山梨】富士山の北麓に位置する西桂町。同町農業委員会（高尾保夫会長、農業委員10人）は6月、耕作放棄地解消の一環として乾燥に強く火山灰土でも育てやすいサツマイモを定植した。

今年で3年目となるこの活動は、地元農家の鹿糠定藏さんと農業委員10人で構成するエンジョイファーム（前田豊光会長）が行い、今年は13㍍に2千本の苗を植えた。

同ファームは定期的な草取りなどを行い、10月には、希望する町民のイモ掘り収穫祭を行う計画

だ。昨年度は約120人が参加、サツマイモの不足を心配するほど好評だったそうだ。

圃場の一角は、小学校の体験学習用に提供する予定。イモ掘り体験を通じて農業を身近に感じてもらい、地域農業への理解を深めてほしいという。

農業委員会の高尾会長は「地道な活動だが、収穫体験をきっかけに農業に興味を持ってもらい、担い手の確保や農地の利用を進め、秀麗な富士山にふさわしい農村景観を残していきたい」と語っている。

首都圏

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

2022年(令和4年)

7月15日 金曜日
月4回金曜日発行